

「必修・教養ゼミナール」をめぐる座談会の記録

教養部は一九八九年度からカリキュラムを改革し、(法学部を除く)一年生のために必修の「教養ゼミナール」を導入した。新入生を少人数のクラスに分け、大学生活を送っていくうえでの基礎的な教養のトレーニングを目指すというのがこの「教養ゼミ」の目的である。とりわけ経営学部の新入生については、教養部と経営学部とが共同で指導していくという体制がつけられており、前期は経営学部の教員が担当し、後期は教養部の教員が担当するというシステムができている。したがって、ここでは、前期のゼミと後期のゼミとの間に有機的なつながりをつけていく必要がある、教養部と経営学部の教員相互の意見交換・経験交流が必要となる。そうしたことから一九九〇年二月二十六日に経営学部と教養部との座談会が開催され、「必修・教養ゼミ」についての意見交換が行われた。PART・1の座談会の記録はそのときの意見交換を収録したものである。

また教養部ではこの「必修・教養ゼミ」について、これを受けている学生たちがどのような印象と感想をもっているのか、それを理解するために、同年の三月二日に学生たちとのミーティングを企画し開催した。PART・2はそのときの記録である。(ただ残念ながら録音状況等の関係で、学生たちの声を充分に収録することができなかった。)